

ふるさと御嵩と共に生き・高まる学校 学ぶ喜び・豊かな心・健やかな体

御嵩小校報

平成26年度

第 53 号

2月 18日

学校の教育目標
のびよう きたえよう
せいりっぱい

- ・みんなで学ぶ子
- ・たすけあう子
- ・けんこうな子



後期学校評価の結果及び公開について

大変ご多用の中、後期の学校評価をお願いしましたが、快くご協力いただきありがとうございます。アンケート結果を、今後のよりよい学校づくりや本校の教育活動、子供たちへの指導に生かしていきたいと考えます。まとめた結果を、校報・ホームページ等で後期の自己評価書として、公開させていただきます。

なお、御嵩小学校の教育についての評価アンケートに係る意見等に対しては、学校としての回答をきちんと述べたいと思います。19日(木)参観日の学級・学年懇談会等で、該当学年・学級で説明させていただきますので、よろしくお願ひします。

平成26年度 後期 御嵩町立御嵩小学校 自己評価書

達成度の◎:90以上○:80以上△:75未満 空欄:75~80 ↑昨年より2ポイント以上上昇 ↓2ポイント以下下降

$$(達成度) \% = \frac{4 \times \text{人数} + 3 \times \text{人数} + 2 \times \text{人数} + 1 \times \text{人数}}{4 \times \text{総数}} \times 100$$

青：3ポイント以上上昇
赤：3ポイント以上下降

項目	評価指標	達成度			
		前期	後期	比	
教育課程	1 ふるさと学習	教職員 学校や御嵩の特色を生かした創意あるふるさと学習に取り組んでいる。	90.5◎	87.2◎	↓
		保護者 御嵩のよさを生かした生活科や総合学習等に取り組んでいる。	83.6○	82.7○	
		児童 みたけについての学習は、たのしく取り組んでいます。	89.6◎	89.5◎	
学習指導	2 きめ細かな指導	教職員 主体的に学ぶよう一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をしている。	85.1○	89.3◎	↑
		保護者 一人一人を大切にされたきめ細かな指導をしている。	77.2	77.7	
		児童 自分のペースに合わせて学習しています。	88.1○	85.6○	↓
学習指導	3 反復練習	教職員 読み、書き、計算することなどの繰り返し学習を大切にして指導している。	88.5○	90.0◎	
		保護者 読み、書き、計算することなどの繰り返し学習を大切にしている。	82.5○	83.8○	
		児童 計算や漢字、音読などをくりかえして学習しています。	85.0○	85.6○	
学習指導	4 学び方	教職員 基本的な学習姿勢や学び方が身に付くよう意図的に指導している。	87.2○	90.7◎	↑
		保護者 基本的な学習姿勢や話し方・聞き方の指導をしている。	79.3	79.2	
		児童 話す人に体をむけて聞いたり、目を見て話したりしています。	83.8○	81.7○	↓

【考察】学習づくり委員会

「ふるさと学習」については、前期より少し下がっているものの、25年度より達成度は高い。地域との連携を大切にしながら、「愛郷心」を高めるための実践を進めたい。「きめ細かな指導」については、児童の意識が前期より低下している。児童は自分のペースに合わせた学習ができていないと感じており、個別の指導の充実が必要である。保護者のわが子に対する期待は大きく、きめ細かな指導の一層の充実を願っていると考えられる。「反復練習」については、三者共に評価が高くなっていることは成果である。本校の研究実践や、朝の基礎学力定着のための習熟や家庭学習等の取組により、児童も意欲であった。「学び方」については、学習姿勢づくりの教職員の評価が向上しているのに反して、児童の意識はやや低下しており、教師の取組が児童の学習姿勢の定着につながっていない面があると考えられる。

【改善策】

「できた、わかった」という声をあげる児童の姿を目指し、一層の指導の工夫・改善を図る。児童は自分のペースで学ぶことを望んでおり、単元末テストや習熟プリント等の結果から、一人一人の実態とつまずきの要因を分析し、指導方法の工夫改善を図りたい。また、児童の学習の様子や学力について保護者に伝え、家庭とのつながりを強めていくと共に、家庭で自ら学ぶ子を育てたい。「学び方」の定着は、授業づくりの基盤でもある。低学年からの日々の積み重ねを通して身に付けさせたい。そして、最も大切なのは、「よさを認め、ほめながら個の伸びを実感させる」ことであり、その有効な評価の在り方を追究していきたい。

項目		評価指標		達成度		
				前期	後期	比
生徒指導	5 自己存在感	教職員	子どもの声に耳を傾け、一人一人のよさを認める指導をしている。	86.5〇	88.6〇	↑
		保護者	子どもの声に耳を傾け、一人一人のよさを大切にしている。	77.3	75.7	
		児童	自分の思いを先生に進んでお話しします。	78.7	75.8	↓
	6 いじめ・差別	教職員	問題行動などに対して、全校体制で適切な指導を行っている。	87.8〇	87.9〇	
		保護者	いじめや差別のない温かい学級・学校づくりに取り組んでいる。	78.9	76.4	↓
		児童	いじめたりいじめられたりしないで、仲良く学校に通っています。	86.0〇	85.0〇	
	7 言葉遣い・挨拶	教職員	よい言葉遣いや気持ちのよい挨拶が身に付くよう指導している。	83.1〇	80.7〇	↓
		保護者	よい言葉遣いや気持ちのよい挨拶が身に付くよう指導している。	78.6	78.3	
		児童	いつでもだれにでも、気持ちのよいあいさつをしています。	83.2〇	80.4〇	↓
【考察】生活づくり委員会 教職員の評価で、自己存在感が2.1ポイント、いじめ・差別についてわずか0.1ポイント上昇しているものの、その他はすべて減少している。保護者の結果は、どれも80ポイント未満で、あまり評価が高くない。特に自己存在感については、教職員と、保護者・児童との差が13ポイント近くある。これは、教職員の指導が保護者に十分伝わっておらず、また、教職員が思うほど子ども達は満足していないということがわかる。いじめについては、保護者の評価が低いが、児童が前期とほぼ変わらないことからすると、昨今の状況から、いじめに対する意識が高く、また、学校に求めるものが高いためと考えられる。あいさつ・言葉遣いについては、保護者の認識はあまり変わらないが、教職員・児童ともに数ポイント減少している。全体的に指導に力を入れていく必要がある。						
【改善策】 保護者に対して、学校での指導が十分に伝わっていない傾向がある。今後も、根気よく伝えていく必要がある。子どもの言葉に耳を傾け、「聞いてもらった」という満足感を与えられるように、きちんと対応することを心がけていく。あいさつ・言葉使いについては、全校でのあいさつ運動だけでなく、日常的に教師もこだわり、意識を高めていく必要がある。						

項目		評価指標		達成度		
				前期	後期	比
進路指導	8 キャリア教育	教職員	勤労生産学習や当番・委員会活動等で働くことの大切さを指導している。	82.4〇	85.0〇	↑
		保護者	栽培活動や当番・委員会等で、働くことの大切さを指導している。	84.0〇	82.3〇	
		児童	野菜や菊づくり、動物の世話など一生懸命取り組んでいます。	89.2〇	87.2〇	↓
	9 夢と希望	教職員	一人一人が将来の夢や希望をもって生活できるよう指導している。	79.7〇	80.0〇	
		保護者	希望をもち、めあてをもって精一杯努力するよう指導している。	79.5〇	79.9〇	
		児童	自分もあのようになりたいと、めあてをもって生活しています。	88.8〇	86.6〇	↓
【考察】仲間づくり委員会 「キャリア教育」については、全体に評価が高い。しかし、児童の評価が少し下降している。また、「夢と希望」については教職員が前期の課題を意識して取り組んでいるが、児童の評価は低くなっている。後期に下降する傾向は前年度と同様である。これは、教職員や保護者の設問には「栽培活動」以外にも「当番・委員会」が入っているのに対し、児童の設問では「野菜・菊づくり・動物の世話」に限られていることが影響していると考えられる。後期になると畑などの作業もほぼなくなる。						
【改善策】 それぞれの学年の能力に応じて、勤労生産的活動の意義を伝えるとともに継続的に取り組んだ成果を確認したり広めたりする活動を大切にしたい。夢と希望は、前期同様に児童一人一人が夢を抱くことができるような話をしたり、適切な本を薦めたり、道徳を通して実践力を高めたりすることによって夢や希望をもつことができるようにする。さらに係活動や委員会活動において、児童が取組の成果をふり返る機会を位置づけるとともに、教職員も取組の様子について評価し、励ましていくことも必要である。児童一人一人が、めあてや願いをもって学習・活動等に取り組んでいけるよう指導の工夫改善を図る。また、次年度は、児童の設問(9夢と希望)の見直しをする。						

項目		評価指標		達成度		
				前期	後期	比
安全管理	10 安全な登下校	教職員	登下校時の子どもの安全や事故防止に努めている。	90.5◎	85.7〇	↓
		保護者	交通指導や不審者対応等、安全に登下校できるように指導している。	81.9〇	81.5〇	
		児童	安全に気をつけて登下校をしています。	92.4◎	89.8◎	↓
	11 危機管理	教職員	命を守る訓練が実施され災害時等の対応策が子どもや保護者に示されている。	89.2〇	90.0◎	
		保護者	命を守る訓練(避難訓練や防犯訓練等)を行い、非常時に備えた訓練や対策を講じている。	82.3〇	82.3〇	
		児童	災害にそなえ、命を守るくんれんなどを真剣に取り組んでいます。	96.3◎	95.1◎	
	12 安全点検	教職員	施設や設備の安全点検を徹底し安全で有効に活用できるようにしている。	83.8〇	82.1〇	
		保護者	施設や設備の安全に気をつけ、有効に活用できるようにしている。	80.6〇	80.9〇	
		児童	ブランコやロケット遊具など、安全に気をつけて遊んでいます。	93.3◎	92.2◎	
【考察】健康づくり委員会						

登下校に関して、教職員と児童の低下が目立つが、全体的には80～90ポイントとなっており、ある程度の水準は保っていると考え。その中で、保護者は80ポイントあまりであり、やはり、学校の指導や取組をよく知っていただく必要がある。

【改善策】

教職員のポイントが後期下がっているのは、前期は、交通安全教室や自転車点検など、指導する機会が多くあるのに対して、後期は特に全体指導をする場が少ないことが原因の一つと考える。前期は分団も新5～6年生が中心となって登下校をスタートするので、トラブルが起きることが多く、保護者からの相談を受けることもある。逆に、後期は問題行動も少しずつ減り、指導の機会が少なくなる傾向がある。登下校の指導については、他校においても様々な取組がなされているが、御嵩小で現在行っている「分団ファイル」を用いた見届けは、教職員や子どもにとっても無理がなく、効果をあげていると考える。このまま継続していきたい。

項目		評価指標		達成度			
				前期	後期	比	
保健管理	13	体力向上	教職員	運動に取り組み、体力の維持、向上に取り組むように指導援助している。	83.8〇	85.7〇	
			保護者	健康増進、体力向上のために、運動に親しむように指導している。	80.8〇	81.2〇	
			児童	うんどうがすきで、外で元気にあそんでいます。	85.3〇	81.7〇	↓
	14	食育	教職員	朝ごはんや給食の指導など「食に関する指導」を大切にしている。	85.1〇	86.4〇	
			保護者	栄養指導や給食指導等により、食生活を見直すよう指導している。	84.3〇	83.4〇	
			児童	給食はすききらいをしないで、何でも食べています。	79.6	79.2	
	15	生活改善	教職員	生活改善をはたらきかけ、基本的な生活習慣の確立をめざしている。	83.8〇	85.7〇	
			保護者	早寝早起き朝ごはん運動等により、生活リズムを正すようにしている。	83.2〇	81.4〇	
			児童	はやね、はやおき、朝ごはんをがんばっています。	83.8〇	81.7〇	↓

【考察】健康づくり委員会

体力向上で、児童の低下が目立つが、この時期インフルエンザがはやっていたことも影響しているかもしれない。教職員はすべての項目で、わずかであるが増加している。体力向上で保護者もわずかに増加しているものの、全体として81～86ポイントで、さらなる向上を目指したい。

【改善策】

質問の仕方を、「うんどうがすき」という言葉をなしにして、「休み時間は外で元気に遊んでいます。」に変えていくようにする。特に寒くなってくると外に出なくなるので、3学期の大縄大会や12月からの大縄タイムはこのまま行っていきたい。全校的な動きをつくるために、20分休みは委員会活動も一切なしにして、全校児童が全員外に出て遊ぶよう推奨していくようにする。

項目		評価指標		達成度			
				前期	後期	比	
組織運営	16	教育目標・自己評価	教職員	校長、教頭、主任等がリーダー性を発揮し、経営方針の具現に努めている。	89.2〇	89.3〇	
			保護者	教育目標や方針・自己評価等の内容を明確にして学校づくりを進めている。	80.7〇	80.0〇	
			児童	学年目標や学級目標をめざして生活しています。	90.0◎	87.1〇	↓
	17	運営組織・協力体制	教職員	教職員は、協力して子どもの指導にあたっている。	89.2〇	90.0◎	
			保護者	教職員は、協力して子どもの指導にあたっている。	81.4〇	79.5〇	
			児童	多くの先生から、いろいろとおしえていただいています。	90.9◎	89.8◎	

【考察】学校評価委員会

教育目標・自己評価については、教職員・保護者とも前期とほぼ同様で、引き続き校長の明確な経営方針のもと、指導に当たることができた。運営組織・協力体制については、保護者の「協力して子どもの指導に当たっている」という項目が、やや下がっており、その原因を探るとともに、次年度に向けて、3学期から改善していく必要がある。「多くの先生からいろいろ教えてもらっている」という子どもの意識が引き続き高い点は、大きな成果であると考え。

【改善策】

「協力して子どもの指導にあたっている」という意識は、今後も職員が実感しながら、取り組んでいくことが大切である。一人で悩み、一人で対応するということがないように、学年部、生徒指導や養護教諭、初任者指導、相談員などの連携を、引き続き大切に、相談しやすい（職員も）関係作りと、お互いにカバーしあう体制作りを継続する。保護者の「協力して子どもの指導に当たっている」という項目が上昇するように、原因を探るとともに、良さを見つけるという視点を広めるために、学校評価でいただくプラスの意見についても、公表していくようにしたい。

項目		評価指標		達成度			
				前期	後期	比	
研修	18	自己研鑽・資質向上	教職員	教職員は、日ごろから指導力の向上に努めている。	87.2〇	90.0◎	↑
			保護者	教職員は、日ごろから指導力の向上に努めている。	82.0〇	80.6〇	
			児童	先生の授業は、たのしくて、よくわかります。	89.9◎	89.2〇	
	19	主題研究	教職員	主題研究に対して、組織的・意欲的に取り組んでいる。	85.1〇	87.1〇	↑
			保護者	算数などの学習は、基礎的・基本的な内容を定着させるよう努めている。	81.9〇	84.1〇	↑
			児童	算数などの学習は、好きです。	81.0〇	80.3〇	

【考察】研究推進委員会

平成26, 27年度指定を受け実践している「小学校からの教科専門性新システム」の開発、「学力向上徹底プラン」の取組を前期より具体的・実践的に行うことができた。教職員も自己研修・資質向上のための取組を高く評価している。主題研究についてもその理解と組織的な取組が進み、充実してきた。特に「基礎的・基本的な内容を定着させるよう（教職員が）努めている」という項目の評価が上がったことは、成果の一つと考える。

児童の意識には大きな変化はなかったが、「（教科）学習が好きだ」という児童が一層増えることを願い、研究実践の充実を図りたい。

【改善策】

「わかる」授業を積み重ねることが、児童の学力向上の最善の方法である。次年度は研究教科を広げ、お互いに学び合う研究組織をつくりたい。また、学年内の授業交換を一層進め、より専門的で児童にとって「楽しく、よく分かる授業」を目指す。そのために教員の専門教科の他に、担当する教科の指導力の向上を図るため、研修会への参加を積極的に行い、中学校との合同教科研究を充実・発展させたい。そうした実践を通して児童の確かな学力の定着を図る。

項目			評価指標	達成度			
				前期	後期	比	
連携	20	郷土愛・奉仕	教職員	地域の行事・ボランティア活動等に参加するよう指導している。	80.4〇	82.1〇	
			保護者	地域の行事・ボランティア活動等に積極的に参加・協力している。	79.7〇	78.0	
			児童	みだけの行事やボランティア活動によく行きます。	77.4	75.2	↓
	21	情報の発信	教職員	教育方針、児童の様子など、保護者や地域にわかりやすく伝えている。	86.5〇	88.6〇	↑
			保護者	学校・学級通信や懇談会等で、学校や児童の様子を説明・報告している。	83.1〇	82.5〇	
			児童	学校・学年通信など、かならずお家の人にわたしています。	90.3〇	89.1〇	
	22	情報収集	教職員	保護者の悩みや相談に対応し、地域の方々の声に耳を傾けている。	87.2〇	89.3〇	↑
			保護者	懇談会やアンケート等で、保護者や地域の方々の声を聞こうと努めている。	82.8〇	81.4〇	
			児童	さんかんびなど、たくさんの方がよく見にきてくれます。	89.1〇	87.8	
23	保小中の連携	教職員	保育園、幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組んでいる。	88.5〇	89.7〇		
		保護者	保育園、幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組んでいる。	82.2〇	81.4〇		
		児童	保育園児や中学生とのふれあいをたいせつにしています。	83.1〇	81.3〇		

【考察】学習づくり委員会

どの項目も、前期とほぼ同様のものがほとんどである。保小中の連携・情報発信・収集は、職員の評価が上昇しており、授業を通した小中連携（教科部会）が、教職員の意識の向上につながっていると考える。学力向上徹底プランの成果の一つととらえ、今後も継続できるよう、大切にしたい。教職員が上昇している反面、保護者や児童の評価がわずかではあるが下がっていることについては、保護者の更なる期待があるものと思われる。ボランティアへの参加意識では、児童が1学期より下がっており、ぜひはたらきかけて、積極的な参加を継続したい。

【改善策】

幼保小中の連携は、今後も大切に、それぞれ来年度新1年生へのスムーズなつながりを意識して、情報交流を密にしていく。また、昨年度より意識が高まっているボランティアへの参加についても、引き続き呼びかけ、高学年を中心に、地域の活動に積極的に貢献できる子どもたちを増やしていく。向陽中学校の意識の高さ（KCV：向陽クリーンボランティア等）に学びたい。

項目			評価指標	達成度			
				前期	後期	比	
施設設備	24	施設設備の活用	教職員	施設・設備を活用し、教育の効果を上げている。	80.4〇	82.6〇	↑
			保護者	チャレンジ教室の活用など、施設・設備・環境を、教育活動に役立てている。	82.1〇	81.6〇	
			児童	いろいろな教室や道具をつかって、たのしく学習しています。	90.1〇	90.2〇	
	25	施設設備の整備	教職員	校舎内や校舎周辺の整理整頓に心がけ、教育環境を整備している。	82.4〇	82.1〇	
			保護者	校舎内や校舎周辺の整理整頓に心がけ、教育環境を整備している。	81.7〇	80.4〇	
			児童	きれいな学校にするために、しゃべらずにそうじをしています。	80.8〇	75.0	↓

【考察】学校評価委員会

施設設備の活用について教職員の達成度の伸びが大きい。児童も「いろいろな教室や道具を使用した学習を楽しみ」と感じていることから、教職員の努力が児童の意欲につながっていることが分かる。6年生の外国語活動教室を学年で整備して作ったように、より教育的な効果を上げるためには、今後は25の「整備」の部分に力を入れていく必要がある。

児童のそうじの姿は、5ポイントも下がっている。これまでも、委員会を中心に大掃除週間の取組などはしてきた。さらに、通常の清掃活動について、全職員で共通理解を図り指導をしきる必要がある。「御嵩小の教育」の清掃活動についても見直す必要がある。また、掃除ロッカーの道具も整え、児童が掃除をしやすい環境も整備していきたい。

【改善策】

しゃべりながら掃除をする姿を減らすために、まず『黙々掃除』というようなスローガンを立て、ねらいを明確にし、教職員の共通理解を図って4月から一斉に指導していく。そのために、今年度中に掃除道具をそろえたり、掃除の仕方のマニュアルを作成したりする。全校統一した指導ができるように準備をしていきたい。

現在学校では、今年度の成果と課題を明確にしなが、来年度に向けて、学校づくりや本校の教育活動についての方向性を検討し、来年度の計画を立てています。その中で、今回のアンケートや貴重なご意見を生かしていくようにしていきます。ご協力ありがとうございました。